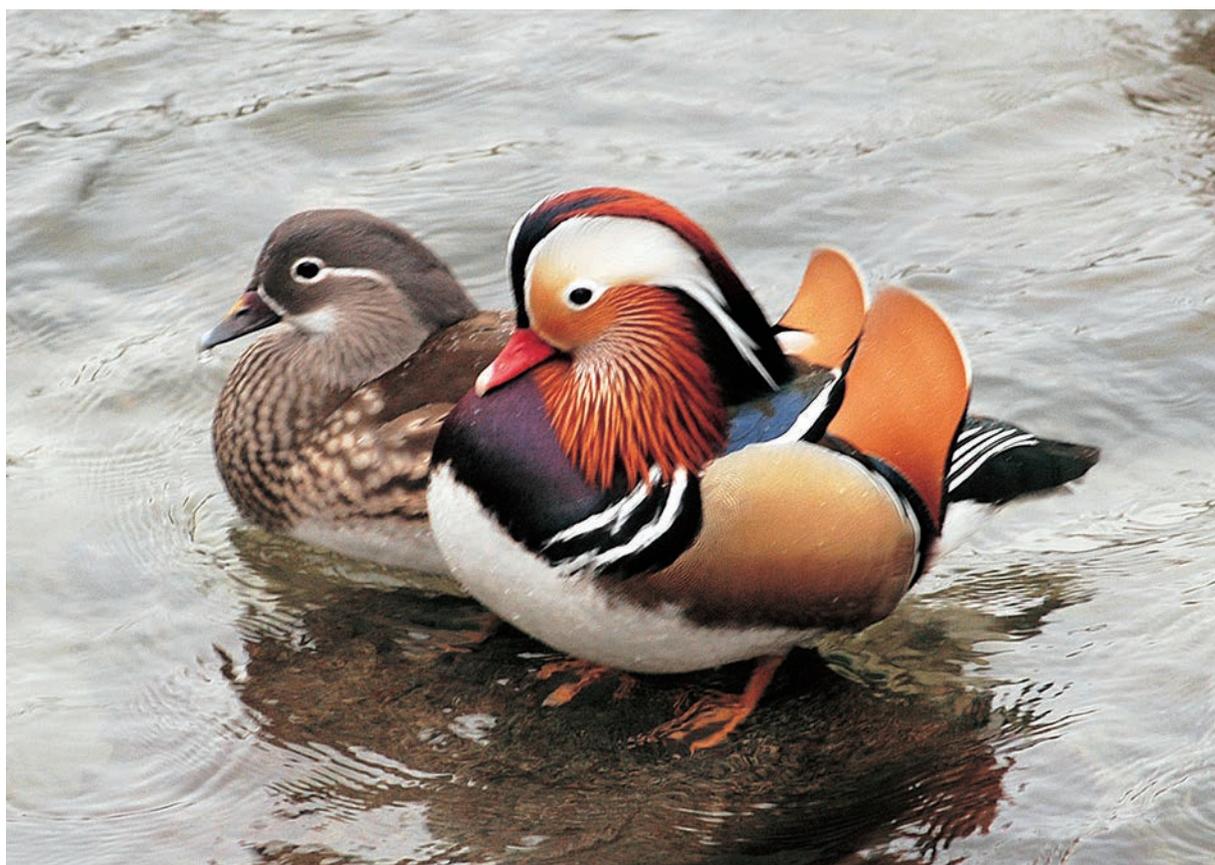




鳥取いのちの電話通信

第62号 ●相談受付電話 (0857) 21-4343 ^{しみしみ} 毎日 12:00~21:00



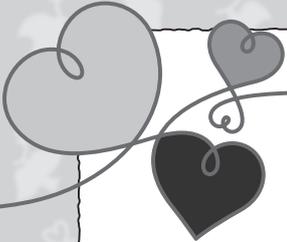
日野町の「オシドリ」



日野町の「オシドリ」

日野町を流れる一級河川「日野川」には、毎年冬になると800羽以上のオシドリが飛来します。

令和4年度、リニューアルされたオシドリ観察小屋（根雨地区）では、望遠鏡や双眼鏡を使ってオシドリを間近に観察することができ、観光客や写真愛好家の憩いの場となっています。



「鳥取いのちの電話30周年を迎えて」

社会福祉法人 鳥取いのちの電話

理事長 下田 光太郎

令和7年10月4日、社会福祉法人鳥取いのちの電話は開局30周年を迎え、とりぎん文化会館小ホールにおいて記念式典ならびに講演会を執り行いました。当日は、鳥取県知事平井伸治氏、鳥取市長深澤義彦氏、日本いのちの電話連盟副理事長李清一氏よりご祝辞を賜り、その後「竜ちゃんのばかやろう」と題して、自死されたダチョウ倶楽部上島竜兵さんの奥様上島光氏よりご講演をいただきました。コロナ禍後という状況もあり、どれほどの方々にご来場いただけるか不安もありましたが、当日は200名近い皆さまにお集まりいただき、実行委員会をはじめ関係者一同、安堵したところです。

本記念式典の開催にあたっては、林由紀子実行委員長をはじめとする運営委員会・実行委員の皆さまが、約1年にわたり入念な準備と計画を重ねてください、成功裏に開催することができました。ここに、実行委員長の林理事様ならびに実行委員の皆さまに、心より深く感謝申し上げます。

ここで、鳥取いのちの電話の歩みを少し振り返ってみたいと思います。

「鳥取いのちの電話」は、1995年にボランティア組織として電話相談事業を開始いたしました。以来、多くの方々のご尽力により活動は発展し、2004年には社会福祉法人として登記、2005年には10周年記念事業、2015年には

20周年記念事業を開催いたしました。2020年には、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、一時的に電話相談事業を縮小せざるを得ない状況となりましたが、その後徐々に回復し、現在は365日・1日9時間体制で、鳥取県をはじめ全国から寄せられる電話相談に対応しております。

鳥取いのちの電話が誕生した1995年1月17日には、阪神・淡路大震災が発生し、6,000名を超える尊い命が失われました。被災地には全国から多くの人々が駆けつけ、救助や復旧活動に尽力され、日本の「災害ボランティア元年」とも呼ばれる出来事となりました。そのような時代背景の中で、鳥取いのちの電話もまた、地域におけるボランティア活動の機運の高まりを受けて誕生いたしました。以来、多くの方々に相談員としてご参加いただき、今日まで活動を継続することができました。

「いのちの電話」は、孤独や苦しみを抱える方々が再び生きる力を取り戻し、自死を一人でも減らすことを目的とした社会活動です。その根幹を支えているのは、相談員の皆さまによる自発的かつ無報酬のボランティア活動にほかなりません。電話相談は、相手の立場に立ち、傾聴し、理解し、寄り添い、ときに励まし、共感し、支えるという、全身全霊を注ぐ営みであり、多大なエネルギーと忍耐を必要とします。まさに、人としての究極の利他的行為と言えるで

しょう。昼夜を問わず相談に応じてくださってきたご労苦は計り知れません。この場をお借りして、長年にわたり相談活動に尽力してこられた相談員の皆さまに、心より深く感謝と敬意を表します。

さて、現在鳥取いのちの電話では、相談員登録者の急激な減少により、日々の電話対応が困難な状況となっています。ここ数年は、毎年の相談員養成講座の応募者数が一桁台にとどまり、時には講座の中止を検討せざるを得ない年もありました。現在登録されている相談員数は、最盛期の半数以下となっています。相談員養成講座応募者減少の要因としては、さまざまなことが考えられます。新しい時代の流れの中で、相談内容の多様化が進み、心の叫びやSOSを受け止める公的相談窓口、NPO法人による相談センター、さらにはSNSや生成AIなど、多様な相談手段が急速に増加していることも一因と考えられます。その結果、「いのちの電話」の存在が相対的に薄れ、養成講座応募者の減少につながっている可能性があります。

また、働き方改革の進展に伴い、受講者自身の時間的・距離的制約により、養成講座への参加が難しくなっている現状もあり、募集広報活動が十分な成果を上げられていないのが実情です。この相談員不足の問題は、鳥取いのちの電話に限ったものではなく、全国ほぼすべてのいのちの電話に共通する深刻な課題となっています。一施設のみで対応できる範囲には限界があり、日本いのちの電話連盟においてもこの状況を重く受け止め、今後、全国各地のいのちの電話からの提言を受けながら、さらなる対策が講じられるものと考えられま

す。鳥取いのちの電話においても、組織一丸となり、一人でも多くの方に相談員としてご参加いただけるよう、また養成講座の体制や制度の見直し、改革を進めていく必要があります。皆さまのご理解とご協力を、何卒よろしく願い申し上げます。

その第一歩として、多様な人材をより広域から確保するため、鳥取県のご支援のもと、米子市と連携し「米子サテライトオフィス」設置の準備を進めております。また、2025年10月より開始した第32期相談員養成講座では、鳥取市と米子市をオンラインで結び、同時開催とすることで、米子市でも受講・聴講が可能となりました。今後もさらなる広報活動を行い、多くの、そして多様な方々に相談員養成講座へご参加いただけることを願っております。

これからも鳥取いのちの電話が、地域の皆さま、そして支援を必要とされるの方々のお役に立ち続けることを祈念し、30周年記念誌に寄せる想いといたします。



令和7年
10月4日

開局30周年記念

記念式典

挨拶	鳥取いのちの電話理事長	下田 光太郎
祝辞	鳥取県知事	平井 伸治氏
	鳥取市長	深澤 義彦氏
	日本いのちの電話連盟副理事長	李 清一氏

事業内容紹介

鳥取いのちの電話事務局長 伊藤 邦子
鳥取いのちの電話動画放映

こころのうたコンサート

歌 鶴崎 千晴さん ピアノ 兼田 恵理子さん

講演会

講師 上島 光/広川ひかる氏(故上島竜兵さん(ダチョウ倶楽部)の奥様)
演題 竜ちゃんのばかやろう ～前向きな今日と後ろ向きの昨日～

令和7年10月で開局30周年を迎え、記念事業として記念式典と講演会を10月4日(土)とりぎん文化会館小ホールにて開催しました。記念式典には200名もの多くの皆さまにご参加いただき心よりお礼申し上げます。

記念式典では、主催者挨拶、来賓祝辞に続き、20周年以降のこの10年間の歩みをご報告し、動画放映を行いました。来賓の皆さまには心強い励ましや暖かいお言葉をいただき、胸がいっぱいになりました。また、今後もこの活動を続けていくんだという気持ちがさらに大きくなりました。

続いて「こころのうたコンサート」として、ピアニストの方と鶴崎千晴さんにおいていただき、愛燦燦、いのちの歌、もみじなど6曲を歌っていただきました。参加して下さった全員の方と一緒に歌う和やかなひとときもあり、皆さまがよくご存じの歌を選曲したの

で、喜んでいただけたのではと思っています。また、情熱的なオペラで心躍る瞬間も楽しみました。

今回の講演会の講師には、上島光/広川ひかるさん(ダチョウ倶楽部 故上島竜兵さんの奥様)をお招きし、竜兵さんとの出会いや、竜兵さんの死に向き合うための道のりなど、穏やかな口調の中にも切なさを吐露され、その葛藤の先に、「命は自分だけのものではない、みんなのもの」と呼びかけられました。「いのちを守る」活動をしている団体にとって、とても意義のある講演会になりました。

この30年間、この活動に関わっていただいた多くの方々、ご支援いただいた会員及び寄付者の皆さま、一緒に支え活動してきた多くの相談員の皆さまに感謝し、これからまた40年へ向けて「いのちの電話」をつなげていきたいと願っています。(K)



式典&講演会



開局30周年記念誌発行を終えて

このたび、私たちの組織が開局30周年という大きな節目を迎えるにあたり、記念誌を発行する運びとなりました。編集委員の一員として、この貴重な機会に携われたことを心より光栄に思っております。

30年という歳月は、決して平坦な道のりではなかったことでしょう。先人たちのたゆまぬ努力と情熱、そして多くの方々の温かいご支援とご尽力があつてこそ、今の私たちがあります。

本誌では、これまでの歩みを振り返ることができ、30年の間に少しずつ相談時間を拡充し、さまざまな相談電話に参加してきた様子がうかがえます。また、毎年開催されてきた研修会や講演会からは、電話相談の質を少しでも高めたいという強い思いが伝わってきます。

さらに、毎年多くの相談員を送り出してくださった養成講座の講師の皆さまには、心より感謝申し上げます。多岐にわたるカリキュラムを継続的にご提供い

ただいたことが、活動の礎となっていることを改めて実感いたしました。

編集作業を通じて、数々の貴重な記録や思い出に触れ、改めてこの組織の歩みの深さと広がりを実感しました。関係者の皆さまから寄せられた温かい言葉やエピソードの一つひとつが、記念誌に命を吹き込んでくれています。

記念誌が、これまでの歩みを振り返ると同時に、これからの未来を描く一助となることを願ってやみません。そして、次の10年、20年へと続く新たな歴史の一ページとして、多くの方々の心に残る一冊となれば幸いです。

最後に、記念誌の作成にご協力いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。(T)



障害を有する方の中には、障害者雇用（一般企業における障害者枠）や福祉的就労（就労継続支援事業所等の利用）を利用されている方がいます。本人たちは一生懸命に働いているのですが、収入は少なく自立した生活を送るには不十分であり、それを少し補うためにも障害年金を受給しておられる方も少なくありません。

ところが、令和7年に入ったところから、「障害年金を申請したが不承認になった」「更新申請をしたが不承認になった」というケースが増加してきました。もちろん、障害年金は申請すれば全ての方が受給できるわけではなく一定の受給要件を満たしている必要があります。ところが、全国的に、受給要件を十分に満たし、今までなら承認されていたであろう事案が（特に発達障害の方が多く）不承認になっているのではという報道がありました。

発達障害の方は、普通に落ち着いて話をするときは、きちんとコミュニケーションもできる方も多く、人一倍仕事ができる方もいます。しかし、対人緊張が高かったり、人と話したり集団の中にいるだけで強い疲労感が強く、週に3日働くだけで強い疲労感を抱き、週に3日が限界だと話す人もいます。けれども、はた目から見るとその理解が難しく、週に5日頑張りましょうと安易に言われたり、頑張りが足りない努力が足りないとい誤解されてしまうことがあります。障害年金の不承認の背景には、こういった発達障害の方への理解が年金を判定される方、一般の方々には不十分なのでは感じています。



スーミン(日野町)

相談員の声

相談員になって数年経ちますが、返事に困ったり、電話の内容に満足されたかと不安になることの連続です。話を聴くことの難しさは、毎回感じています。そんな中でも、「話ができてよかったです」「ゆっくり眠れそうです」という言葉をいただき、相談員を継続できていると思います。また、継続研修で他の相談員の方の経験を伺うことで、電話対応のヒントにさせていただいています。

今後もひとりでも多くの相談者の方に、いのちの電話を通じて、いのちの大切さ、ひとりの人としての存在の大切さを伝えていければと思っています。

Y.O

電話相談でいろいろな人の話を聴いてきた。どんな人にもその人の人生があって、一本の電話でその断片に触れる。電話の向こうから「相談員さん、どうしたらいいんでしょう」「どう思います？」などと言われるとつい私の意見や経験を話したくなる。そのことで相手の悩みが軽くなり生きづらさが和らいだら、私自身が少しでも人の役に立てたと思いたいからなのだろう。

でも、電話相談にはこちらの思いは必要ない。いかに相手に話をさせてあげられるか、その中で相談者自身が自分と向き合う時間を一緒に過ごす事が大事。分かっているんですけど、これが難しいのです。日々自分との戦いです。

K.S

一人で悩まないで…
あなたは、大切な存在。

社会福祉法人
鳥取いのちの電話

相談電話 **0857-21-4343**

受付時間 正午～午後9時 [年中無休]

フリーダイヤル 「自殺予防いのちの電話」

毎月10日 無料 ☎ **0120-783-556** 午前8時～翌朝8時まで [24時間]

ナビダイヤル

毎日 有料 ☎ **0570-783-556** 午前10時～午後10時まで

社会福祉法人「鳥取いのちの電話」

理事・監事・評議員・顧問

2026年2月1日現在

理事長

鳥取市医療看護専門学校学校長 下田光太郎

理事

社会医療法人明和会医療福祉センター渡辺病院理事長 渡辺 憲

鳥取県私学振興会理事 松田 章義

石谷小児科医院院長 石谷 暢男

鳥取県薬剤師会常務理事 下田 宗人

鳥取市社会福祉協議会会長 林 由紀子

監事

社会福祉法人鳥取福祉会理事長 松下 稔彦

古町税理士事務所税理士 古町 岳志

評議員

くらし佐野法律事務所弁護士 佐野 泰弘

学校法人鳥取家政学園・鳥取敬愛高等学校理事長 藤井 喜臣

鳥取保護区保護司会会長 丸瀬 和美

算齒科医院院長 算 哲郎

鳥取県看護協会会長 松本美智子

倉吉病院院長 兼子 幸一

日本赤十字社鳥取県支部事務局長 池上 祥子

顧問

鳥取市長 深澤 義彦

社会福祉法人 鳥取いのちの電話

事務局 TEL (FAX兼) 0857-29-6556

郵便振替 01400-0-2658

ホームページ

<https://www.tottori-inochinodenwa.com>

発行人 下田 光太郎

編集人 広 報 部

印刷所 中央印刷株式会社

編集後記

開局30周年を迎えました。令和7年は、相談員養成講座を米子市でも開講したため、記念事業と併せて忙しい年になりました。この通信は4月号、10月号を基本に発行していましたが、今回は30周年記念号とするため、発行が遅れてしまいました。

表紙のオシドリは鳥取県の県鳥ですが、このオシドリのように、電話の声に寄り添い、前を向いて40周年に向けて歩んでいきたいと思います。 (編集部一同)